

公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団

2021年度 事業報告書

(自2021年8月1日至2022年7月31日)

事業の概要

ジオパワー学園設立準備に関する事業を行い、日本で失われつつある“地熱掘削技術”を次の世代へと継承・保存することを目的とした、将来性のある地熱発電にかかる一貫した掘削技術教育機関とすることを目的とした学校の設立を目指す。

1. ジオパワー学園設立準備事業

計 959,879 千円

①ジオパワー学園の設置に必要な施設設備の整備(校舎新築工事、掘削機械や校舎の備品等の調達)、寄附

◆設備について

学校校舎、寄宿舍、倉庫、寄宿舍の家具、調理器具の設備等の設備を2021年9月に学校法人に対して寄附を行った

◆掘削機械の購入について

最終的に21社から掘削機械、部品、その他掘削に関する備品等の寄附をいただき、2021年9月に学校法人へ寄附を行った。

◆校舎の備品等の購入

校舎内で使用する椅子や机等の備品の購入、設置は2021年4月に完了、2021年9月に学校法人に寄附を行った。

◆ジオパワー学園の設置に必要な教科書・カリキュラムの策定

<教科書について>

掘削技術は多くの技術の集合体でもあり、掘削技術教育用の教科書は無いのが現状である。そのため、当財団の理事でもある島田を中心に、実務経験を持つ掘削技術者に資料の収集と取りまとめを依頼し、「ロータリー掘削編」と「スピンドル掘削編」の教科書案を作成している。

現在、2021年4月に本の出版契約を東京都千代田区の株式会社オーム社と締結し、作業を進め、2021年11月に「掘削技術の知識と実務—スピンドル式掘削編」2021年12月に「掘削技術の知識と実務—ロータリー式掘削編」が完成し、全国の書店及びAmazon等のネットで販売している。著作権等の権利関係は学校法人に移行しており、学校の教科書として授業で使用している。

②ジオパワー学園の設置に必要な講師の募集・選考

◆掘削技術専門学校の講師の資質・募集人数について

前期で確保した従業員や非常勤講師については2021年9月から学校法人での雇用となっている。

③ジオパワー学園設立準備資金の寄附募集

◆目標寄附募集額

前期に10億円の寄附を集めた。今期については現金での寄付はなかったが、上記①のとおり、21社から掘削機械等の寄附があった。

④ジオパワー学園の寄附行為認可の申請

◆スケジュールについて

前期に許認可の申請、許可は完了している。

⑤地域社会と連携交流(学校開校予定地の釧路地域や北海道内での地熱シンポジウムの開催)

◆地熱シンポジウムについて

一般的に再生可能エネルギーや新エネルギーという単語から連想するのは太陽光発電であり、地熱発電をイメージする人は少ないかと思えます。

しかしながら、【地熱発電の現状と将来展望】に記載したとおり、我が国は世界で第3位の地熱資源量有する地熱資源大国であり、太陽光発電と比べてもクリーンで24時間安定供給できる地熱発電は将来性のあるエネルギーであると考えている。

また、我が国では「温泉」という方法で地熱資源を古くから利用しており、身近な存在である。

もちろん、【地熱発電における課題】で記載の多くの課題もあり、一般的な認知度もまだまだ低い状況であるが、そういった地熱発電を広く認知してもらうために、シンポジウムを計画している。

今期についてもコロナを起因とする緊急事態宣言の影響で会場での開催が困難であり、YouTube上で動画を公開する形で開催した。講演者は下記のとおり。

- ・地熱エンジニアリング株式会社 東京事務所長 荒井 文明氏「SDGsの実現に向けた持続可能な開発を考える。未来づくりを支える・支え続ける仕事 掘削と地質屋」
- ・独立行政法人北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所 専門研究主幹 高橋 徹哉氏「北海道の暮らしと産業を支えてきた掘削技術」
- ・元 株式会社INPEXドリリング 島田 邦明氏「掘削技術の高度化と展望」
- ・北海道大学名誉教授 池田 隆司氏「掘削による挑戦 自然災害・環境問題・自然エネルギー」

2. その他活動費

計 1,832 千円

ジオパワー学園設立準備に関する事業を行うため、財団法人としての人件費、会議費、器具備品等

合計 961,711 千円

公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団
2021年度 事業報告書の附属明細書

(2021年8月1日～2022年7月31日)

記載事項がないため、記載を省略する。